

Highlights

学会印象記

第2回関東甲信越アルコール関連問題学会東京大会

垣渕 洋一 医療法人社団翠会 成増厚生病院(副院長)(大会長)

真冬の開催のため心配していた雪もなく、快晴で風も弱く、暖かな天候のなか、上智大学ソフィアタワーにて第2回関東甲信越アルコール関連問題学会(東京大会)を、500名を超える参加者に恵まれ、大盛況のなか開催することができた。スタッフ、関係者、さまざまに御支援いただいた方々に、まずは深く感謝申し上げたい。

支援対象となるアディクションが増え、支援方法や目標も多様化している昨今、支援者は日々切磋琢磨して、腕を上げていくことが求められている。そこで、第1回大会の「新時代のアディクション支援について考えよう」

というテーマを引き継いで、「QOL(人生の質)を高めるアディクション支援について考えよう」というテーマでプログラムを組んだ。支援者にとって、断酒、断薬は絶対的な善だと考えがちであり急に断つことによる当事者の喪失感や不便さなど、QOL低下に目を向ける余裕がないことが多い。支援の当初からQOL低下にも目を向け、早くQOLが回復するような工夫を凝らすことで、よりよい結果となることが期待できる。

登壇された方は、各々の個性を発揮して熱く実践と研究報告をしていただき、テーマについて深くディスカッションすることもできた。参加者からの、「日本全体の学会は敷居が高い。地方会で、スタッフの人達も顔見知りが多くアットホームな雰囲気がよかった」といった声も聞かれ、会場内のフリースペースでも、随所で話の輪に花が咲いていた。これは地方会ならではのよさであろう。

アルコール健康障害対策基本法に基づく各都道府県の施策も出揃い、学会直前に日本初の減酒補助薬の保険収載が決まるなど、引き続きこの分野に追い風が吹いている。これを生かし、この会がますます発展することを祈念したい。

なお、今回は神奈川県で開催予定となっている。



写真1 教育講演(②プライマリケアと依存症)



写真2 ポスターセッション



写真3 大会長による基調講演